



大学図書館司書の 鹿島みづきさんが 私立大学図書館協会賞を受賞

2005年度の初受賞に続き2回目となり、2回以上の受賞校としては、慶應義塾大学、早稲田大学に続く3校目となります。

大学図書館司書の鹿島みづきさんが、2009年度私立大学図書館協会賞を受賞し、昨年9月9日、西南学院大学において授賞式がありました。

この賞は、図書館の編集により鹿島さんが執筆し、同じく司書の小嶋智美さん、山口純代さん、山田稔さんが執筆と編集協力をして出版された図書、「レファレンスサービスのための主題・主題分析・統制語彙」(勉誠出版)が高く評価されたことによるものです。

なお、本学図書館の受賞は2005年度の初受賞に続き2回目となり、2回以上の受賞校としては、慶應義塾大学、早稲田大学に



平成21年3月にビジネス学部ビジネス学科を卒業した中川扶美子さんが、昨年度の公認会計士試験を受験して見事に合格しました。ビジネス学部の卒業生としては、2年前の加藤景香さんに続く2年連続2人目の合格者となります。中川さんは入学後、会計教育セ



ビジネス学部OGの 中川扶美子さんが 公認会計士試験に 合格

現在は中堅監査法人の東京事務所に就職している中川さんは、「今は研修と実務のとても充実した毎日を送っています。将来は株式会社公認や海外監査業務のエキスパートになって、多くの企業や人々から信頼される会計士になりたい」と話してくれました。中川さんのますますの活躍をお祈りします。

ンターの会計教育科目を受講して簿記に興味を持ち、2年生になって前川三喜男教授のゼミ生となる頃から公認会計士の資格取得を意識し始めたそうです。やがて本格的に資格取得を目標として専門学校でも学びつつ、昨年度の短答式と論文式のそれぞれの試験に合格し、目標を達成しました。

ゼミを担当した前川教授は、「昨年度は合格率が下がり、近年にない超難関の中で合格したことは、後に続く後輩の励みにもなり、大変うれしい。立派な公認会計士として、国内はもとより海外でも活躍することを期待したい」と話されました。



第21回卒業生を招き、 ホームカミングデイ開催



カフェテリア



センテナリーホール



恩師を囲んで記念撮影

10月23日、前年に続き2回目のホームカミングデイを開催しました。高等学校第21回卒業生が還暦を迎えるのを機に、同窓生が母校に還る日を還暦同窓会、ホームカミングデー

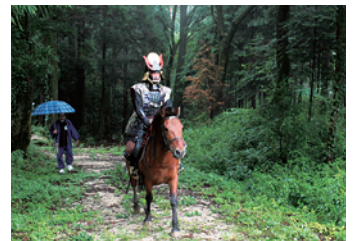
度も集って準備を重ね、ホームカミングデイが実行できたことに感謝し、この会が今後も続くことを願っています。

イとして、学校、同窓会、第21回卒業生実行委員会の三者共催で行おうと春から準備していたものです。卒業生数493人のうち当日は171人の卒業生と、卒業時の担任を始めとする25人の先生方が参加しました。初めにセンテナリーホールで、参加教員の紹介と学園60周年記念映画「淑徳」を上映。同窓生は在校中の行事や建物の映像を鑑賞し、当時の高校生活を懐かしく思い出したようです。

その後、清明館のカフェテリアに移り、会食と懇談。食事を共にしながら、にぎやかに旧交を温めました。最後は同窓生のピアノ伴奏で校歌を合唱し、会を閉じました。

同窓会と実行委員会の方々が何

メディアプロデュースコースの 石丸ゼミが 町おこしドラマを製作中



現代社会学部メディアプロデュースコースの石丸ゼミと岐阜県恵那市岩村町の町づくり団体「城下町ホッとわむら」が町おこしを目的としたドラマを共同で製作中です。

時代・女城主がいた岩村城があり、この女城主を町のブランドとして町をプロデュースしていくプロジェクトを企画。時代に翻弄されながらも強く賢く生き抜いた、全国でも珍しい女城主の物語をオリジナル脚本でドラマ化、主役は現代社会学部4年生の鈴木百合香さん、メインカメラは同じく伊藤修平さん、他2〜4年の総勢約60人の学生がスタッフ、役者として参加して

岩村町の観光大使である女優の渡辺美佐子さんのナレーション録音も11月に本学スタジオで行い、現在今年前半完成を目指して編集中です。

大学の授業で学んだことを外部の方とコミュニケーションを図りながら実際に形として共同で創りあげていく。その過程の中では思うようにいかないこともあれば、教科書から学べない感動体験もあります。学生の皆さんには、こうしたプロジェクトを通して社会の中でコミュニケーション・デザインを学んでもらえればと思っています。



「女子学生のための護身術講座」を開催

12月3日、ジェンダー・女性学研究所主催「女子学生のための護身術講座―心構えから実践まで」を、Wendy Do Projectインストラクターの大沼もと子さんを講師にお招きして、長久手キャンパスで開催しました。

大沼さんは、CAP（子どもへの暴力防止プログラム）のスペシャリストとして地域で活動後、カナダで生まれたWendy Do（自己防衛プログラム）を、2000年に日本に初めて紹介する企画、運営に携わった方です。

実演指導の前に、大沼さんから護身術の目的について話がありました。護身術は、攻撃者の力に対して力で応酬することではなく、まず逃げるのが目的だということ。そして不愉快に感じることは

「ノー」と意思表示することが、自分を守る上で重要なことだと強調されました。

次に使いやすい三つの護身術の紹介がありました。第一は、不意打ちをかけるために大きな声を出すこと。相手の目を見て、「助けて下さい」のようなお願い言葉ではなく、「やめて」とはきり伝えることです。第二に、力に応じるのではなく、最小限の力でかわす方法を実演して頂きました。第三に、攻撃者の弱点を利用する方法を実演されました。

護身術と聞いて、空手などの武道に通じる技を習うのかと思っただけ参加学生らは、「逃げる、不意を突く」などどれも簡単に使い易いものであったことで、自分に自信が持てたと感想を述べていました。



中央棟大アリーナの説明会



教室で行われた今年度の入試問題解説



入試説明会に約1,700人が来校



入試相談会

最初に中学吹奏楽部が数名で重奏を披露、校長あいさつのおと卒業生レポーターとして学校を紹介する形のビデオ

今年度の中学校入試説明会は11月20日に実施しました。例年より日程を早め、中央棟大アリーナで午前を小学校6年生対象、午後を5年生以下対象とし、内容を若干変えて2回に分けて開催しました。

当日は朝から晴天に恵まれ、暖かい一日となりましたが、午前は入試を間近に控えた6年生とその父母が対象ということもあり、朝早くから多くの受験生や父母の列が続きました。

「わたしの淑徳」を上映。その後、副校長より23年度の入試出願についての説明を中心にお話しました。今年度は新しい試みとして、全体会の後、本番の試験場となる中高の教室に移動していただき、昨年度の出題を担当した教員による22年度入試問題解説を映像を通して見ていただきました。本番の入試も2か月後にせまり、真剣な眼差しでメモをとる姿が多く見られました。その後の入試相談も長い列ができ、改めて中学受験に対する熱気と期待を感じました。

午後は5年生以下が対象のため、参加者の雰囲気としては若干余裕も感じられました。中高キャンパスやクラブ見学と合わせて、日頃の学校生活の一端も分かっていただけではないかと思えます。午前午後合わせた参加者総数は約1700人でした。



第3回オープンキャンパスに1,702人が来場



公募制推薦入試「小論文対策講座」(星が丘キャンパス)



全体説明会(長久手キャンパス)



入試相談コーナー(長久手キャンパス)

10月17日、第3回オープンキャンパスを開催しました。愛知淑徳大学を希望する受験生を対象に、本学をより理解してもらうために年3回開催しています。今回は、長久手キャンパスと星が丘キャンパスへ合わせて1702人(昨年比+45人)の来場者がありました(保護者数は含めず)。

当日は、東海4県はもちろん全国各地から来場いただきました。

また、高校1、2年生や保護者の方の姿も多く見受けられ、本学への関心の高さが伺えました。

教員と相談できる本年度最後の機会ということもあり、学科専攻相談コーナーや入試相談コーナーには、入試を目前に控えた受験生による長い列ができました。また、全体説明会では各学科・専攻の内容や入試ポイントをつかまうと、朝早くから多くの受験生がつかまうと、真剣に聞き入っていました。他にも人間情報学部や心理学部、言語聴覚学専攻、スポーツ・健康医科学科が実施した「体験コーナー」に多くの参加者が集まっていました。さらに、昨年に引き続き、星が丘キャンパスにて公募制推薦入試「小論文対策講座」を実施しました。また、第2回オープンキャンパスで実施した公募制推薦入試「基礎学力試験対策講座(国語英語)」の様も両キャンパスでDVD上映し、間近に迫った公募制推薦入試(基礎学力重視型)で合格を狙う受験生にとっては、とても有意義な機会となったようで、参加者からは満足したという声が多く寄せられました。

メディアプロデュース学部 都市環境デザインコースが 学内ギャラリーで展覧会



※会場は全て都市環境デザインコースミニギャラリー

杉藤由佳展 装食動物 9/28~10/14



杉藤由佳さん

選、瀬戸美術展大賞等の入選歴があり、個展も行っています。今回の展覧会では、入賞作品始め新作5点を展示。『きりん、シマウマ、

杉藤由佳氏は、本コースの2009年度卒業生で、卒業後すぐに画家として活動を始めました。在学中から学外のコンクールに入選し、動物の鉛筆画にネイイルアート(ミクストメディア)を組み合わせたという独特の作風で評価されてきました。これまでに中華民国第12回国際版画素描ビエンナーレ展入選、国際アートトリエンナーレ2007入



デッサンレクチャー

デッサンレクチャーを開催しました。参加者は、デッサンの基本である静物画デッサンに挑戦。鉛筆の研ぎ方から紙面上での構成の仕方、濃淡の付け方などア

らくだ、うさぎ：おなじみの動物たちをモチーフに絵を描いています。ずっと観察していると、しぐさが人間のようにもみえてきます。『卒業後も活躍する卒業生を目の当たりにして、在学生も大変刺激を受けたようです。10月11日には、杉藤氏を講師に

ドバイスを受けました。鉛筆の音だけが響くプレゼンテーションルーム。このような時間の過ごし方はこれまでなかなかありませんでした。2時間近く集中し描きあげた作品を最後は全員で講評し合い、形や光を捉え表現するおもしろさとトレーニングを行う重要性を実感しました。



高橋敏郎研究室 あかり展2010 11/9~25

ギャラリーに展示された作品は今年の「美濃和紙あかりアート展」に出品された高橋研究室の3年生の11作品。建築の学生らしくHPシエルを想わせるもの、和紙にジッパーのついたアート作品、突起多面体や七宝つなぎの模様が球形になったものなど多彩な作品が並び、力作揃いで見応えがありました。プロの集うコンクールに挑戦す

るため、春から美濃に足を運び、和紙の製法や使われ方、提灯の張り方などを研究。9月には土佐和紙の研究にも出かけ、手すき和紙の実習も体験。作品は大胆なデザインのものも多く、ランプも白熱灯から電球型蛍光灯やLEDに変わり、照明のデザインも大きく変化してきていることも実感できる展示でした。同時に展示された「コイズミ国

際学生照明デザインコンペ」の作品は、毎年各国から千数百人が応募する国際コンペの、2008年佳作入賞、2007年、2009年の選外優秀賞(計3人の応募作4点で、時代の先端をゆく照明の新たな可能性を感じさせるものでした。新設メディアプロデュース学部の新しい一面を感じさせる展覧会で、学内だけでなく学外から社会人の見学者も多数ありました。



写真発表メンバーと講師のお二人

Photographer ⇄ Architect 11/30~12/7

建築・インテリアの写真家として第一線で活躍する吉村昌也氏と、名古屋デザイン界の仕掛け人・伊藤孝紀氏をお招きし、Photographer ⇄ Architect展を開催しました。展覧会では、10年来的の付合いというお二人の軌跡ともいえる、伊藤氏設計の建築や監修プロジェクトの写真パネル展示、昨年中部建築賞を受賞した個人住宅兼親子カフェ「カドッコ」の模型、また、名古屋工業大学伊藤研究室の数々の民学共同プロジェクト、商

品化されたソファや食器、ナゴヤデザインウィーク2010のメイン会場模型を展示いただきました。12月16日には、お二人を講師に招き、レクチャーイベントを開催。建築家が作品発表する際、写真の存在は非常に重要です。写真家は、その建築の魅力を感じた一日となりました。



レクチャーイベント

表現するため、空間を作り出し、カメラで捕らえます。その真剣勝負の一端をお話いただきました。また、事前応募で聴講者より写真発表を募り、プロカメラマンの吉村氏に講評いただきました。デジタル化した写真環境に対して、どう意識的に撮影を取り組むか、プロの姿勢をひしひと感じた一日となりました。

副学長の島田修三教授が、昨年7月刊行になった第六歌集『蓬断想録』(短歌研究社刊)によって第15回若山牧水賞を受賞されました。若山牧水賞は近代短歌史に偉大な足跡を残した若山牧水の業績を永く業績を永く顕彰するため、現代短歌の分野で傑出した功績を挙げた者に賞を贈ることにより、短歌文学の発展に寄与すること等を目的として宮崎県が力を入れている文学賞です。『蓬断想録』は3年前から2年前にかけて雑誌「短歌研究」に連載された作品を中心に編集された歌集です。茫茫たる日々時間の流れに浮かんで消えていく「切れ切れのおもい」を短歌の形で掬いとつた一冊であり、360首の作品が収録されています。50代後半の日々を生きた島田先生の陰影のある感慨が、虚実こももこの題材によって多彩に表現されており、人間的な味わいのにじむ歌風に特徴があるといえるでしょう。授賞式は2月に宮崎市で行われる予定。「忙しい時期だから、はたして出席できるかな」と島田先生は笑っておられました。



島田修三教授が 若山牧水賞を受賞